

コロナ下の交友関係の変化とその要因

～～交友満足のための有効な施策とは～

2020 年度都市計画演習

7 班最終レポート

小林泰輝(班長)

斎藤一真(副班長)

室岡浩基(接続)

深井翼(DB)

山内賢人(PPT)

北山晴喜(記録)

担当教員：和田健太郎

TA:高橋諒

第1章 序論

1 課題

2 目的

3 研究フロー

第2章 アンケート概要

1 アンケート概要 目的

2 単純集計

2-a 人数と満足度について

2-b 要因について

2-c 自由記述について

第3章 アンケート分析

1 人数と満足度について

2 満足度と人数の関係

3 性格を考慮した分析

4 人数と要因の関係

第4章 提案

1 対面講義について

2 SNS について

第5章 謝辞

第6章 参考文献

付録 アンケート設問一覧

第1章～序論～

1-1 課題・背景

大学生活において交友関係は非常に重要である。「日本教育心理学総会発表論文集」の「大学生活充実感を規定する要因の検討（大対 香奈子）」では、大学生に対しアンケート調査を行い、被説明変数を大学生活充実度、大学生活充実度の尺度を期待感、交友満足、学業満足、不安の4つに分けてこれらを説明変数として重回帰分析を行っている。その結果として学業満足は大学生活充実感に関連が見られなかったのに対して、交友満足が最も大きく関連することが示されている。

ここで、今年の春に行われたオンライン講義に対する筑波大内部からの評価について見ていきたいと思う。筑波大学新聞でのアンケートで、教員も学生も約半数がオンライン授業は良いと回答していることなどから、授業における利便性を追求する結果、コロナウイルスが収まり対面授業を行うことによる感染拡大の危険性がなくなった後もオンライン授業は継続すると考えられる。しかし、アンケート内容から見るとこれは学業面での視点であって、オンライン授業をすることによる交友関係への影響は軽視されている。学業満足よりも交友関係が充実度に大きく関連するという結果があるのにも関わらず、オンライン講義の交友関係の面を詳しく考えられていないのは問題ではないだろうか。新入生は新しい友人関係の構築がオンライン状況下で難しくなっていること、思い描く大学生活とはかけ離れた生活を余儀なくされていること、大学に行けずに、友人も作る事が出来ず退学や休学希望を出す生徒も増えているという。

ここで交友関係の質と量それぞれに検証すべき課題が現れた。まずは交友関係の量について。文部科学省は対面授業が無くなった事で大学生が交友関係の形成に不安を抱えていることに注目し、全国の大学に対して「対面授業を5割以上にするように」という声明を発表した。その上で対面授業5割が実現されていない大学に関してはその大学名を公表すると発表したのだ。文部科学省のこの一連の発表は、講義のオンライン化により大学生の交友関係形成が脅かされ、大学生活の充実感が著しく失われていることに警鐘を鳴らしたと同時に、対面授業が本当に必要なのか、増やせば増やすほど良い物なのかという疑問が生まれるきっかけにもなった。このことを踏まえ、私たち7班は対面授業が大学生の交友関係の満足度に及ぼす影響と、そのコマ数の大小がどれほど交友関係の満足度に影響するのかを検証する必要があると考えた。

次に考えるのは交友関係の質についてだ。交友関係といっても様々な側面がある。例えば、浅く広い交友なのか深く狭い交友なのかということや、新しく友人を作るのか友人関係を維持するのかということ、時間や人数ではなく満足度についてはどうなのか、といったこと。また、講義のオンライン化で影響があったのはどのような交友関係の場面なのだろうか。挨拶などの機会が減ったのか、長時間の会話が減ったのか、これが満足度にどう影響したのか。これら全てを細かく切り分けて今一度交友関係の質に注目して検証を進めていくことにする。

また、オンライン上での交友についても考える必要がある。実際に会うのとオンラインを通して話すのでは特徴に違いがある。オンライン上では相手の顔を見ることができなかったり、空気感が伝わってこなかったりするために自分のことをさらけ出していくのが難しい。また、チャットでは絵文字などは使えるもののオンライン通話同様顔が見えなかったり雰囲気や伝えづらかったりするため、自分の感情を伝えるのは容易ではない。しかし、全てがデメリットと

いうわけではなくメリットもある。例えば、オンラインでは家に居ても会うことができる。つまり、時間と場所に制約が少ないという点だ。夜遅くでも寝る時間ギリギリまでコミュニケーションを取ることができる上、それぞれが自宅で会話できるので場所を指定して集合したり門限など気にしたりしなくても良いのだ。これらのオンラインによって生まれた新たな価値についても見逃さずに、大学生の交友関係の満足度上昇に活かすための方法も考えていく必要がある。

1-2 目的

以上の背景や課題から、筑波大生が交友関係の形成が思い通りに行かず、しかし対面での活動が行われる事でコロナウイルスの感染拡大リスクが高まる事もあり、どうして良いのかわからない、といった不安を持ち続けているこの状況を打開するために、私たち7班は(1)交友関係の形成を考えた時の対面授業の適切な実施方式、実施頻度を明らかにすること。(2)対面での生徒同士の交流を生むためのニューノーマルなアイデアを提案すること。の2つの目的を軸に演習を進めた。

1-3 研究フロー

まず初めに筑波大生を対象とするアンケート調査を行う。これにより、筑波大生の交友の実態を仔細に把握するとともに、これを規定する要因についての分析も行う。その後アンケート結果をもとに交友関係の満足度上昇につながる施策を提言する。

第2章：アンケート概要

2-1 アンケート概要・目的

本調査のアンケートは筑波大生・院生を対象とし、11/4~11/17の期間内に294件の有効な回答を得た。性別は男性173人、女性116人、その他5人で、理工学群(105人)を中心に、生命環境学群(46人)、人文・文化学群(33人)など全ての学群、及び大学院生(10人)から回答を集計した。また、2018年度以前入学者は60人、2019年度入学者は93人、2020年度入学者は141人であった。アンケートでは、昨年春学期、今年春学期、現在のそれぞれについての交友関係の満足度と交友人数を調査するとともに、それらを規定する要因についての仮説を検証できる質問項目を組み入れ調査した(昨年春学期は2019年度以前入学者のみ)。交友人数に関しては、週当たりの平均人数を「挨拶・会釈」「軽い会話」「長時間の会話」「通話・ビデオ通話」「チャット」の5種類に分類し、それぞれにおける人数を計測した。

アンケートの目的としては、交友関係の満足度と交友人数を計測する際に、2019年度以前入学の学生と2020年度入学の学生に分け、大学生活が変化する前後の時期に分けることで、交友関係を維持することと新たに築くことのそれぞれに大学生活の変化がどれほど影響を与えたのかを明らかにすることである。また、交友人数に影響を与える要因を調査することで、特にどの要素が影響を及ぼしたのかを明らかにできるほか、交友人数と満足度の関連性についても分析することが可能となる。

2-2 単純集計結果

2-2-a 満足度と人数の関係について

以下の12個の図が単純集計結果である。

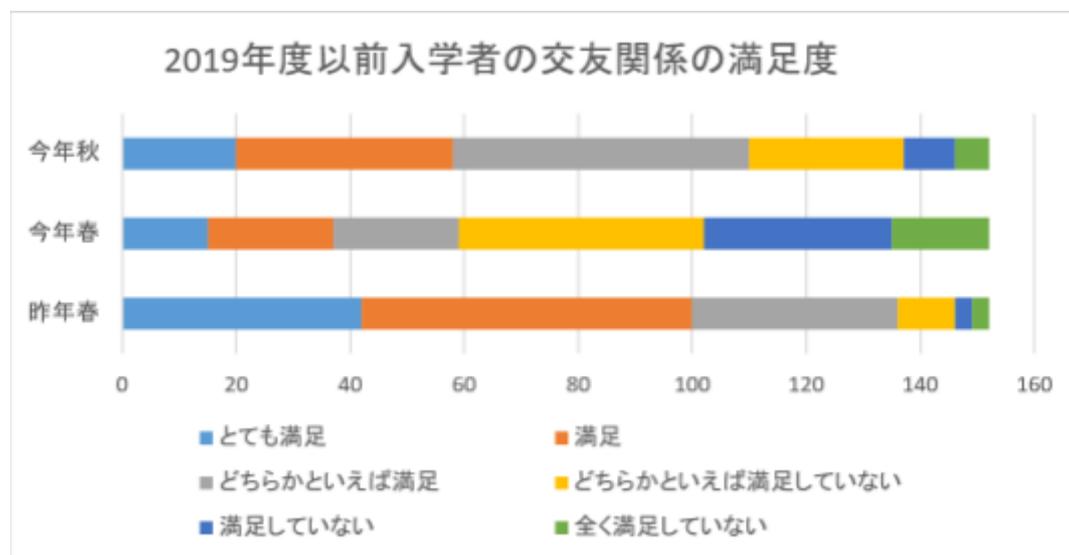


図1 2019年度以前入学者の交友関係の満足度の推移

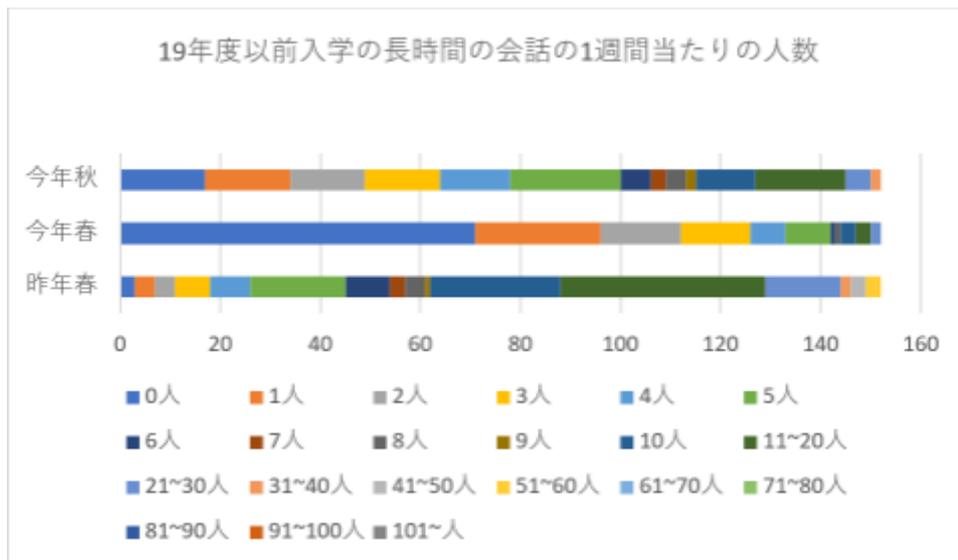


図 2 19年度以前入学者の長時間の会話を行った1週間あたりの人数の推移

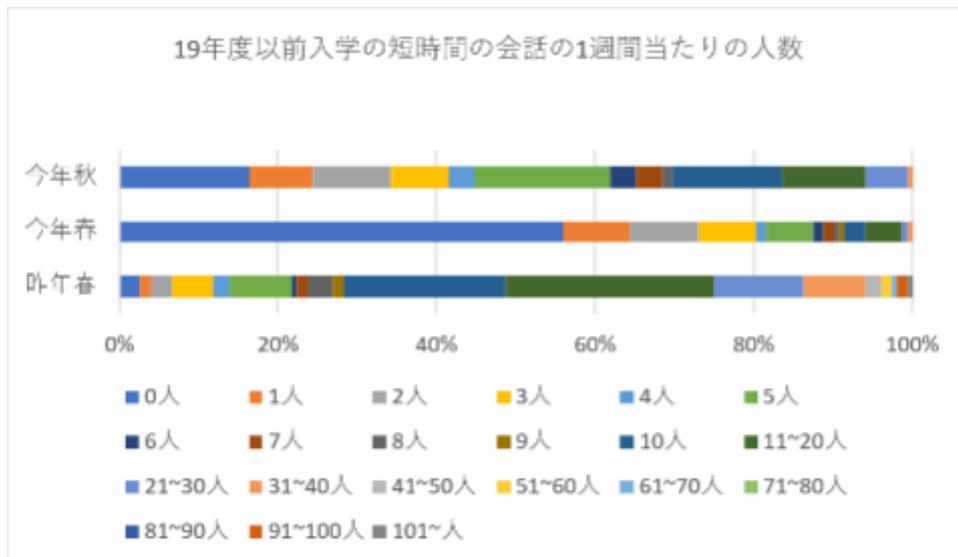


図 3 19年度以前入学者の短時間の会話を行った1週間あたりの人数の推移

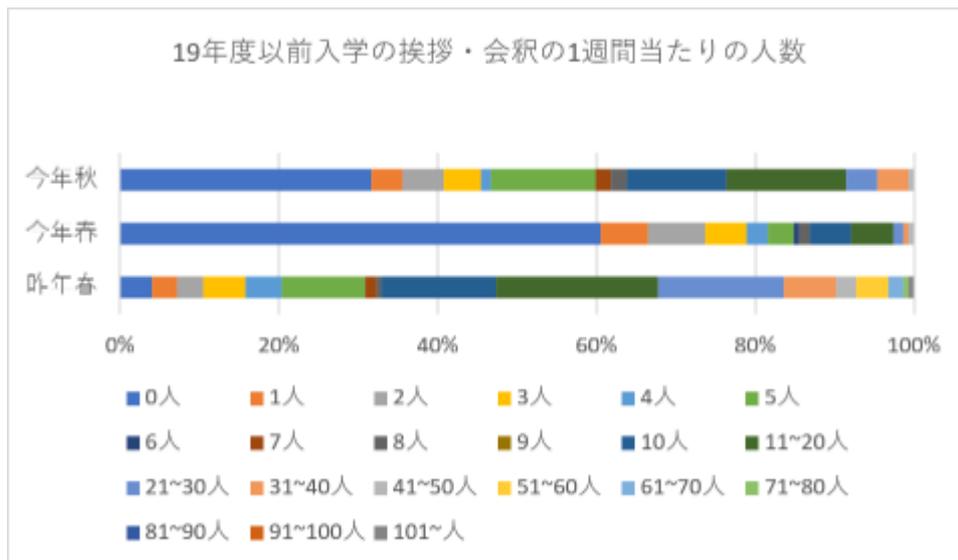


図 4 19年度以前入学者の挨拶・会釈を行った1週間当たりの人数の推移

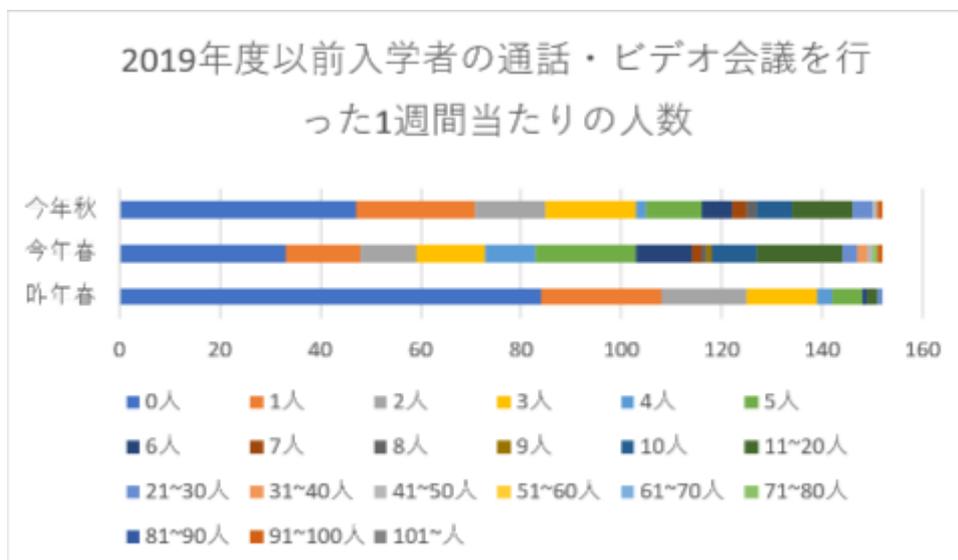


図 5 19年度以前入学者の通話・ビデオ会議を行った1週間当たりの人数の推移

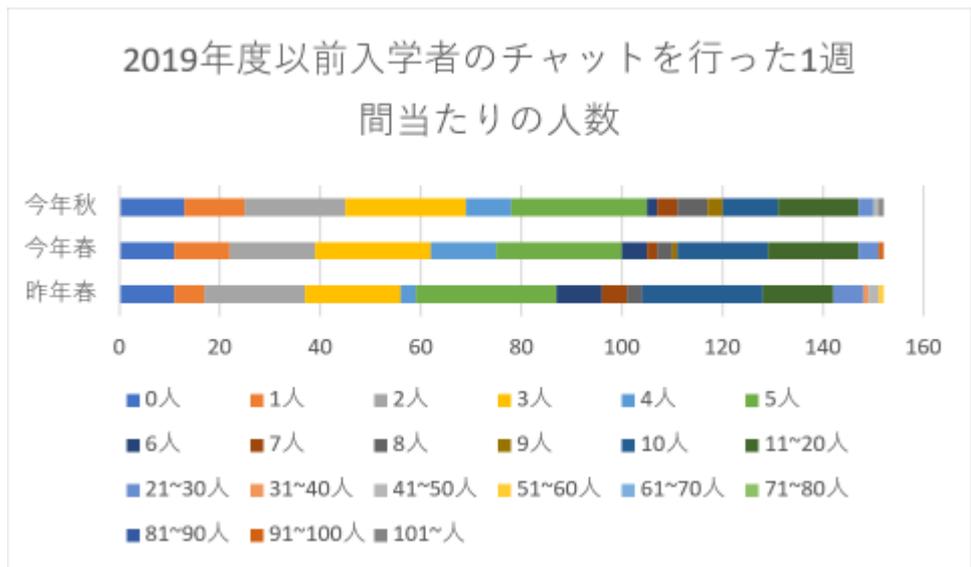


図 6 19年度以前入学者のチャットを行った1週間当たりの人数の推移

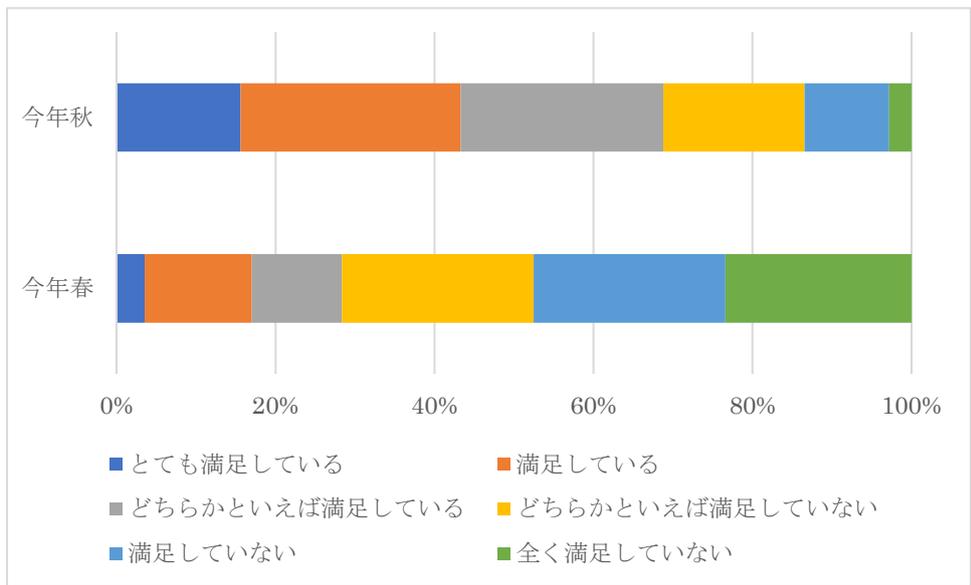


図 7 20年度入学者の満足度の推移

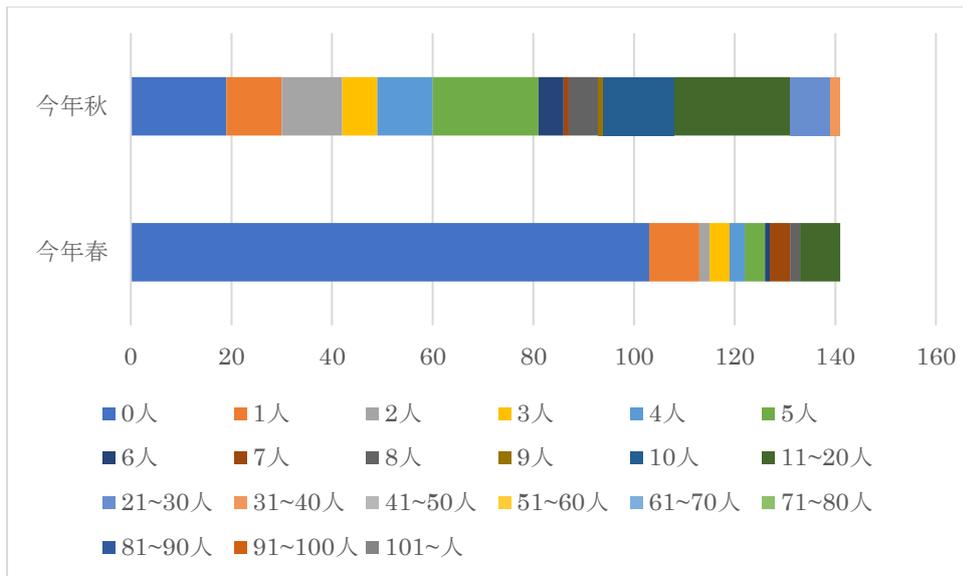


図 8 20 年度入学者の長時間の会話を行った 1 週間当たりの人数の推移

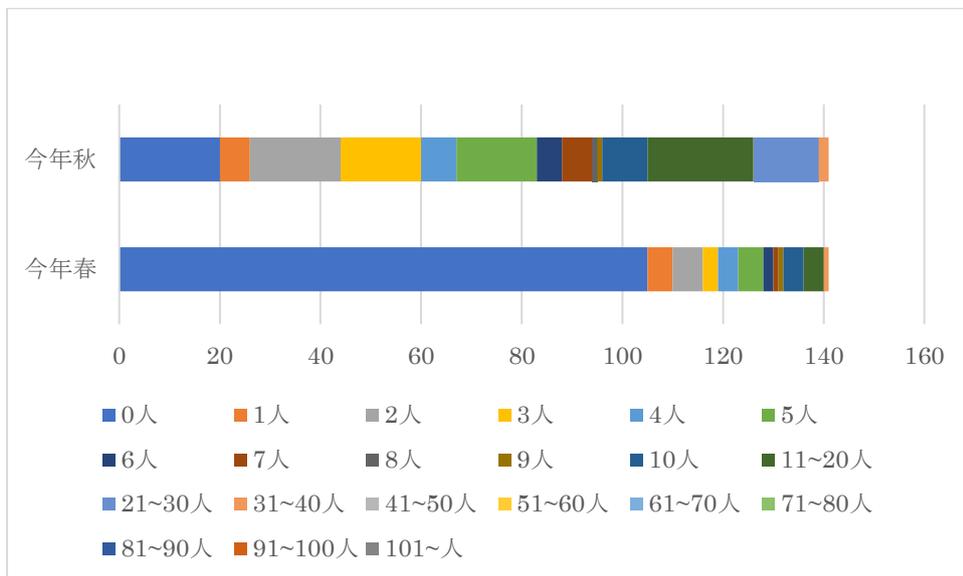


図 9 20 年度入学者の短時間の会話を行った 1 週間当たりの人数の推移

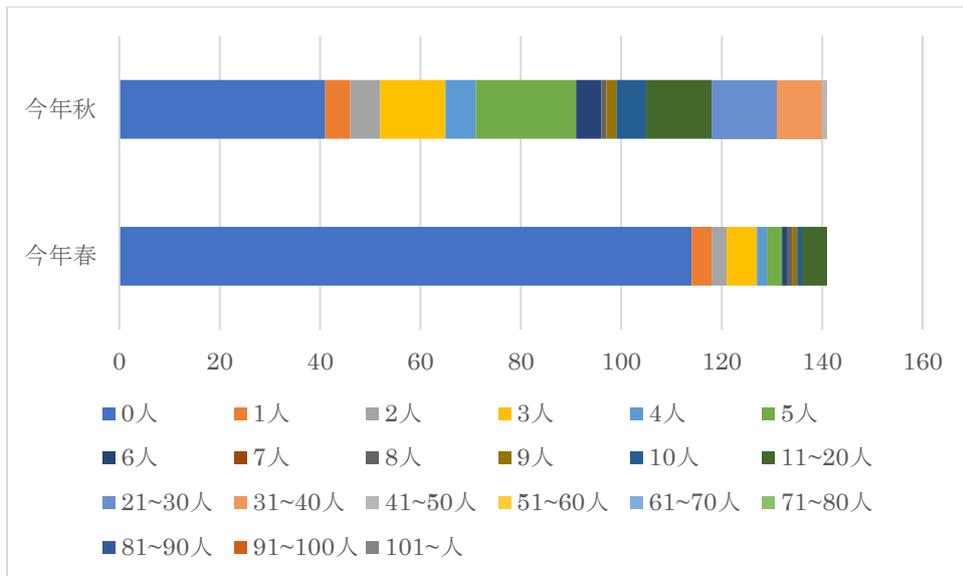


図 10 20年度入学者の挨拶・会釈を行った1週間当たりの人数の推移

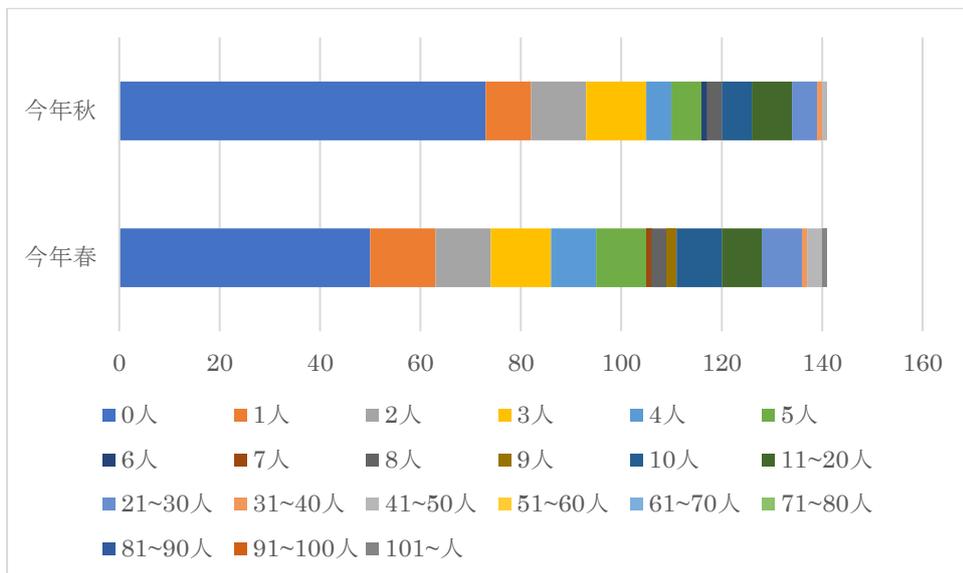


図 11 20年度入学者の通話・ビデオ会議を行った1週間当たりの人数の推移

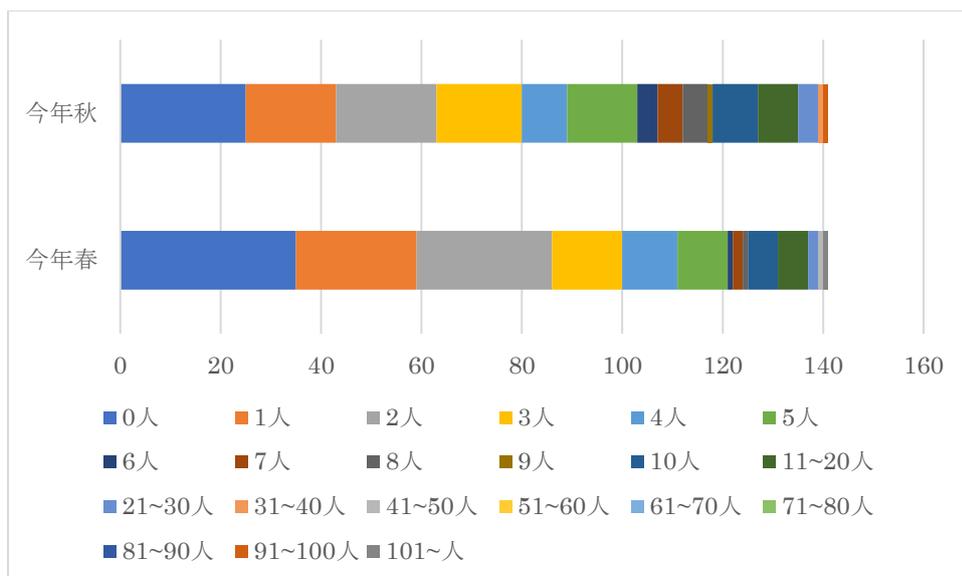


図 12 20 年度入学者のチャットを行った 1 週間当たりの人数の推移

2-2-b 要因について

アンケート内では、交友関係を左右しそうな要因を用意し、それぞれについての質問を設けた。その中で興味深い結果が得られた物についてその考察をここにまとめる。

【Instagram と Twitter】

ここでは 20 生と 19 生以上との違いで興味深い結果がえられた。

基本的に 19 生以上は Twitter の利用が 20 生よりも盛んで、Instagram についてはその逆の傾向が見られたのだ。

【サークルの加入率】

オンラインの状況下でのサークルの加入率で分かったことがある。アンケートでは全サークルに加え、運動系サークルだけを抽出したときのサークルの加入率のデータも集めた。

そして分かったことは運動系サークルと文化系サークルで分けたときに、このオンライン状況下では文化系サークルの方がサークルの加入率の減少が大きかったということだ。サークル活動の形式を考えるに、オンラインでもある程度の活動が出来る文化系サークルの方がオンライン化によるサークル加入率への影響が少ないと予測していただけにこの結果は意外な物だった。

【友人と迎える試験勉強】

友人と一緒にテスト勉強をすることがあったか、との質問に対する回答では、2020 年春学期の段階で新入生の 4 割以上が既に友人と一緒にテスト勉強やレポと課題に取り組んでいる事がわかった。オンライン化によって新入生の交友関係の形成に不安があっただけに驚きの結果だ。

2-2-c 自由記述について

自由記述では、アンケートに協力していただいた学生一人一人からその生活の有り様を自由に書いてもらうことで提案につなげていく事を狙っていた。

【オンラインで新たに生まれた活動】

部内筋トレ、オンライン合奏、twitterでの作品公開、声劇、フォトコンテスト、オンライン飲み会、夜間のミーティング、オンラインでトレーニング、SNSでの宣伝、動画編集、宿題制度、オンライン人狼、サークル内雙峰祭、他団体との合同MTG、オンラインクイズ、オンライン試合、教科書の輸送販売

→オンラインでも交友関係の形成に繋がる活動、オンラインから対面での交流に繋がる交流とはどんなものがあるのか。

交友関係の形成につながった講義

体育、実験、都市計画実習、テーピング&マッサージ、社会教育計画論、囲碁で培う思考力、英語、フレセミ、哲学通論、メディアアート、日本語の文法演習、実用解析、行動調査法、文化・開発論、微積分2

→交友関係の形成に繋がるとされるこれらの講義の共通点を見出し、授業のあり方提案につなげる。

【交友関係に起こった変化】

19 生以上

わざわざ機会を作らないと合わない、勉強がしにくくなった、恋人ができました、秋学期になり20生が入ってきて話すことが多くなった。いままで交流のない友人との会話が増えた。大学院での友達が増えた。対面でご飯を食べに行くようになった。人と会う機会が少ない。研究室の飲み会の回数が減った。週に1度必ず友人グループでzoomおしゃべり。以前より気軽に連絡を取れるようになった。少しだけ1年生と知り合った。あったときに以前よりもより満足度が感じられるようになった。オンラインのみでも新たな活動を始めて、新たなコミュニティが形成された。ボランティアを始めて学内の交友増えた。学類からサークルへシフトした。1年生と食事に行くことが増えた。昨年交流のあった人との交流が今年はなくなった。春はほぼ誰とも会っていない。秋は親しかった人とのみあっていた。恋人ができた。LINEでの連絡が増えた。大学内ではなく共通の趣味を持った学外の人と仲良くなった。

20 生

春はTwitterだけの交友で1対1のやりとりが少なかった、秋はTwitterユーザー以外の人とのやり取りも増え秋新歓を通じて交友関係が広がった、飲み会増えた(20生)、春に仲良くなった友達がつくばに引っ越してきて対面で会えるようになった、秋学期は女性と仲良くなった、秋になって他学類の人と友達になった、オンライン上では交友関係が半強制だったため例年より交友関係が豊かだった、春はオンラインで顔を合わせる程度だったが秋に対面になったことで顔と名前が一致した、夏休みで友達が大きく増えた、サークル活動の規制緩和により先輩とも交流が増えた、秋学期から共通の趣味のある友達ができ、対面授業のグループワークによって友達が増えた、Twitter経由で興味のあるサークルに入った、対面で会うことのフレキシブルさを感じるようになった

→学生の自由な意見から、学生がオンライン状況下で本当に求めていることを見出す。

第3章 アンケート分析

1 人数と満足度について

まず、大学に入学した時点の交友について分析するために、1年生の今年春と2年生の昨年春の交友人数の平均と満足度の平均を比較したところ、以下の通りになった。なお、満足度は最高点を「とても満足している」の6点、最低点を「全く満足していない」の1点とした。

表1 1年生と2年生の比較

	1年生今春	2年生昨年春	1年生今秋
長い会話	1.6人	13.5人	7.6人
軽い会話	1.6人	19.0人	7.8人
挨拶・会釈	1.1人	19.4人	8.5人
通話	6.4人	1.3人	3.8人
チャット	4.2人	7.5人	5.5人
満足度	2.8点	4.6点	4.1点

この表から今年の新入生は2年生の昨年春と比較して交友人数が明らかに少ないことが分かる。また、満足度も2点近く差がついている。このデータの比較から今年の新入生は例年と比較して交友の人数が少なく満足度が低いということが示された。なお、2年生の昨年春と1年生の今年秋を比べると、交友人数に差はみられるものの満足度には大きな差はみられない。対面講義が少しでもあると満足度は大きく上がると推測する。

次に、2年生以上の交友の変化について分析する。2年生以上の昨年春と今年春とで交友の変化を調べたところ、以下の通りとなった。

表2 2年生以上の交友の変化

	2年生以上昨年春	2年生以上今春
長い会話	12.8人	2.1人
軽い会話	17.8人	2.5人
挨拶・会釈	18.6人	3.1人
通話	1.3人	6.9人
チャット	7.7人	6.7人
満足度	4.8点	3.3点

この表から2年生以上における昨年と今春の交友関係は大きく変化していることが分かる。通話の人数は増加したものの、対面での交友（長時間の会話、軽い会話、挨拶・会釈）は大幅に減少している。満足度に関してだが、まず昨年春の満足度が非常に高い。そして今春は1.5点マイナスの3.3点だが、これは四捨五入すれば「満足している」から「どちらかといえば満足していない」に下がったことを意味する。つまり2年生以上も交友の満足度は減少したといえる。ただ今春における1年生と2年生以上の満足度では2年生以上のほうが0.5点高いという結果が出た。これは2年生以上が1年生と違ってすでに友達ができていたという違いから生まれたのではないかと推測する。

さらに、19年度以前入学者の場面ごとの交友人数について分析する。以下の表は、19年度以前入学者の挨拶・会釈、短時間の会話、長時間の会話それぞれについて昨年春を100としたときのそれぞれの期間の平均人数を表したものである。

表3 場面ごとの交友人数の変化

	挨拶・会釈	短時間	長時間
昨年春	100	100	100
今年春	16.7	14.0	16.4
今年秋	43.0	37.6	50.8

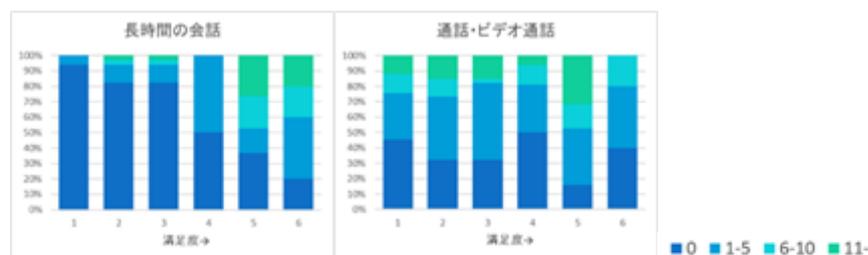
この結果によると、今年春について軽い交友、長い時間の交友どちらについても同様に減っていることがわかった。しかし、今年の秋については長時間の交友の方が減少は小さいということがわかった。今年春は自粛風潮が強く、一緒に食事などに出かけたくても出かかなかった、あるいは対面講義というきっかけがないとわざわざ会いにいかないという2つの理由が考えられる。

最後に、2019年度以前の入学者の昨年春、今年春、今年秋の通話・ビデオ会議の人数、チャットをした人数について比較する。通話・ビデオ会議の平均人数は、昨年春は1.3人、今年春は6.9人、今年秋は4.9人であった。一方、チャットの平均人数は、昨年春が7.7人、今年春が6.7人、今年秋が6.5人であった。通話・ビデオ会議については交友人数が増加したが、チャットについては交友人数が変化しなかった。テキストコミュニケーションは主に親睦を深めることよりも、業務連絡に使われており、行う連絡の量はコロナ下でも変化しなかったためチャットの人数についての差は見られなかったと考えられる。

2 満足度と人数の関係

交友人数の要因5種類と満足度との関係性についてのグラフを作成したところ以下のようなになった。なお、満足度は最高点を「とても満足している」の6点、最低点を「全く満足していない」の1点とした。

グラフからわかるように、入学年度・学期にかかわらず、長時間の会話をする人数が多いほど、満足度が高い傾向にあることがわかり、通話・ビデオ通話は満足度の高さにほとんど影響していないことがわかった。



3 性格を考慮した分析

【調査手法】

まず、アンケート内で実施したショートビッグファイブテストの結果から主成分分析を実施し、以下のような二つの群に分類した。外向性が低く協調性が高いことなどから第1群をのび太群、外向性が高く神経症傾向が低いことなどから第2群をジャイアン群と名付け、各々の因子得点がどちらの群に近いかによって分類した。

表 主成分分析結果

	のび太群	ジャイアン群
外向性	-.430	.594
協調性	.571	.267
誠実性	.444	.702
神経症傾向	.438	-.509
開放性	-.743	-.019

昨年春学期(2019年度以前入学者のみ)・今年春学期・今年秋学期の交友の人数・満足度において、両群に差は見られるのか、また、年度によってその差は異なるのかなどについて調査した。

【2020年度入学者(のび太群 65人・ジャイアン群 76人)】

今年春学期においては、ジャイアン群の方が満足度は高く、交友人数に関しても、全5項目でジャイアン群の方が多い傾向にあった。このことから、対面・オンラインに関わらず、ジャイアン群には何らかの方法でコンタクトをとっている人が多く、それが高い満足度に繋がっていることがわかった。

今年秋学期においては、両群ともに満足している人の割合が大幅に増加したが、やはりジャイアン群の方が満足度は高い傾向にあった。交友の人数に関しては、両群の差が大きく縮まった。全体的に0人の割合の差が縮まったほか、10人以上の割合にもほとんど差がみられなかった。このことから、対面授業が解禁されると交友人数に差がなくなることがわかった。

【2019年度以前入学者(のび太群 76人、ジャイアン群 77人)】

昨年春学期においては、ジャイアン群のほうが対面の長時間の会話、短時間の会話、挨拶・会釈の交友人数が多い傾向にある。これは、コロナ禍発生以前であるため、純粋に性格による積極性の差が表れていると考えられる。またオンラインのコミュニケーションであるチャットや通話についてはあまり差が見られず、

今年春・秋学期においては、ジャイアン群のほうが満足度は若干高い傾向にあるが、性格による交友人数に大きな差は見られなかった。20年度入学者と同様にジャイアン群のほうが満足度は高い傾向が表れている。人数についてはコロナ禍において新たな交友関係を築くことはしておらず、性格による差が出なかったと考えられる。

【2020年度入学者と2019年度以前入学者の比較】

20年度入学者は今年春から秋にかけて性格による交友人数の差が縮まっているのに対し、19年度以前入学者は今年度春の対面以外で性格による差は特に見られなかった。これは19年度以前入学者が以前からあった関係を持続させているのに対し、20年度入学者は新たに関係を築かなければならなかったため積極性の差が表れたと考えられる。

共通点としては学年に関わらず全体的にジャイアン群のほうが交友人数は多く（0人の割合が少ない）、今年度春に違いが大きく表れていることが挙げられる。

以下は満足度の比較である。

表 5 20年度入学者の性格による満足度比較

2020年度	のび太群	ジャイアン群
今年春学期	2.71	2.84
今年秋学期	3.91	4.29

表 6 19年度以前入学者の性格による満足度比較

2019年度以前	のび太群	ジャイアン群
昨年春学期	4.66	4.88
今年春学期	3.13	3.44
今年秋学期	4.04	4.16

※満足度：1(低い)→6(高い)

4 交友人数と規定要因の分析

交友人数を被説明変数、要因を説明変数とする重回帰分析を実施し分析を行った。以下その分析結果について述べる。

【昨年春】 n=136 †p<0.1 *p<0.05 **p<0.01 ***p<0.001

	長時間[人/週]	短時間[人/週]	挨拶会釈[人/週]	通話・ビデオ [人/週]	チャット[人/週]
自由度修正済み決定係数	0.082	0.033	0.046	0.215	0.136
ツイート数[回/週]	-0.009	0.009	0.118	-0.151†	-0.034
リプライ数(Twitter)[回/週]	0.003	-0.039	-0.049	0.403***	0.145
Instagram ストーリー投稿数[回/週]	0.09	0.186†	0.17†	0.261**	0.348***
ストーリーへの DM 送信回数[回/週]	0.055	0.016	0.037	0.144	0.054
LINE・DM の返信速度	-0.056	-0.056	0.013	-0.042	0.042
サークル・部活動加入数	0.067	0.044	0.144†	-0.066	-0.031
宅通ダミー	-0.028	-0.075	-0.146	-0.04	-0.03
通学時間(分)	-0.03	0.06	0.155	-0.028	0.045
アルバイト回数[回/週]	0.024	-0.024	-0.013	-0.062	-0.025

外向性	0.245**	0.176*	0.114	-0.012	0.082
協調性	-0.253**	-0.07	-0.032	-0.087	-0.154†
誠実性	0.04	0.159†	0.022	-0.049	-0.038
神経症的傾向	-0.084	-0.061	-0.147†	-0.11	0.02
開放性	-0.028	0.061	-0.021	-0.099	0.015

ここで注目すべきは、Instagram ストーリー投稿数が増えると長時間以外の交友が有意に増加することである。

【今年春】 n=263 †p<0.1 *p<0.05 **p<0.01 ***p<0.001

	長時間[人/ 週]	短時間[人/ 週]	挨拶会釈[人/ 週]	通話・ビデオ [人/週]	チャット[人/週]
自由度修正済み決定係数	0.082	0.033	0.046	0.215	0.136
ツイート数[回/週]	-0.009	0.009	0.118	-0.151†	-0.034
リプライ数(Twitter)[回/週]	0.003	-0.039	-0.049	0.403***	0.145
Instagram ストーリー投稿数[回/ 週]	0.09	0.186†	0.17†	0.261**	0.348***
ストーリーへの DM 送信回数 [回/週]	0.055	0.016	0.037	0.144	0.054
LINE・DM の返信速度	-0.056	-0.056	0.013	-0.042	0.042
サークル・部活動加入数	0.067	0.044	0.144†	-0.066	-0.031
宅通ダミー	-0.028	-0.075	-0.146	-0.04	-0.03
通学時間 (分)	-0.03	0.06	0.155	-0.028	0.045
アルバイト回数[回/週]	0.024	-0.024	-0.013	-0.062	-0.025
外向性	0.245**	0.176*	0.114	-0.012	0.082
協調性	-0.253**	-0.07	-0.032	-0.087	-0.154†
誠実性	0.04	0.159†	0.022	-0.049	-0.038
神経症的傾向	-0.084	-0.061	-0.147†	-0.11	0.02
開放性	-0.028	0.061	-0.021	-0.099	0.015

ここで注目すべきは Instagram ストーリー投稿数が増えると全ての交友が有意に増加すること、居住環境が実家になると全ての交友が有意に減少すること、学内団体でのオンライン活動が増えると長時間・短時間のリアルでの交友が有意に増加することである。

【今年秋】n=263 †p<0.1 *p<0.05 **p<0.01 ***p<0.001

	長時間[人/週]	短時間[人/週]	挨拶会釈[人/週]	通話・ビデオ [人/週]	チャット[人/週]
自由度修正済み決定係数	0.071	0.137	0.137	0	0.211
ツイート数[回/週]	0.015	0.104	0.113†	0.002	0.031
リプライ数(Twitter)[回/週]	-0.073	-0.039	0.057	-0.074	0.166**
Instagram ストーリー投稿数[回/週]	0.263***	0.2**	0.128*	0.167*	0.384***
ストーリーへの DM 送信回数[回/週]	-0.042	0.045	0.109†	0.039	0.053
LINE・DM の返信速度	0.034	0.012	0.021	-0.052	0.094†
サークル・部活動加入数	0.079	0.066	0.079	0.054	0.043
オンラインでのグループワーク[コマ/週]	0.053	-0.074	0.018	0.032	-0.045
双方向リアルタイム形式[コマ/週]	-0.007	0.085	0.031	-0.021	0.005
対面授業[コマ/週]	0.136	0.244**	0.227*	-0.039	0.038
対面での体育や実験、グループワークなど[コマ/週]	-0.05	0.033	0.033	-0.022	-0.007
宅通ダミー	-0.004	-0.008	-0.052	-0.002	-0.037
通学時間(分)	-0.018	-0.063	-0.061	-0.055	0.01
アルバイト[回/週]	0.088	0.072	0.064	-0.093	0.07
外向性	0.022	0.012	-0.021	0.023	0.046
協調性	-0.018	0.064	0.007	-0.047	0.004
誠実性	-0.031	0.042	0.079	-0.081	-0.045
神経症的傾向	-0.093	-0.057	0.007	0.008	-0.017
開放性	-0.036	-0.032	-0.013	0.016	-0.081

ここで注目すべきは Instagram ストーリー投稿数が増加すると全ての交友が有意に増加すること、対面授業の週当たりのコマ数が増加すると短時間・挨拶会釈の交友人数のみが有意に増加すること、今年春に影響があった居住環境要因の影響が見られなくなっていることである。

第4章：提案

4-1 今後の授業形態について

まず前提として授業は勉強をするためだけでなく交友関係を築く場所でもある。前述したとおり、文科省はより対面授業を増やすような方針を設定している。この理由として、文科省は直接の対面による学生同士や学生と教職員間の人的な交流も重要な要素であると述べている。しかしながら、5割以上という基準は本当に適切なのだろうか。[大学等における本年度後期等の授業の実施と新型コロナウイルス感染症の感染防止対策について（周知）（mext.go.jp）](https://www.mext.go.jp)

筑波大学でも秋学期になって対面授業が再開した。アンケートによると回答した筑波大学生のうち約6分の5が対面授業は1コマ以上あると回答した。ここで、対面授業が0コマ群と1コマ以上の群に分けて交友人数の差についてのT検定を行った。

結果、長時間の会話、軽い会話、挨拶会釈が有意な差が見られた。長時間の会話が最も満足度に影響を与えているので、0コマと1コマ以上では大きな差があるとわかる。

また対面授業が全くなかった今年春と一部行われた今年秋で比べると、のび太群とジャイアン群、宅通群とその他群では交友人数の差がなくなった。また、今年秋の1年生の満足度はかなり上がっており、対面授業再開の影響が出ていると考えられる。

しかし、先ほども示した通りオンライン授業は教員生徒ともに評価が高い。自宅で受けられることの利便性。そして一般的には、授業数が増加すると、交友関係の面での効用は逡減すると考えられている。

オンライン授業の良さと利便性、対面授業が全くない春学期と一部ある秋学期の違い、0コマ群と1コマ群の差が大きいという分析結果から、5割以上の対面授業は必要ないのではないかとこのことが言える。要するに今年秋学期の対面授業を最小限にしたオンライン授業ベースの授業形態が適しているという結論に至った。

4-2 学内 SNS の提案について

私たちは、筑波大生間の「対面での交友」のきっかけづくりとして筑波大学独自の学内 SNS があったら良いのではないかと考えた。今年度は対面で思うように会えず、新入生が友達作りに苦労したので、主なターゲットを新入生に定めている（もちろん、2年生以上も利用可能）。学内 SNS を提案することになったのは、長時間の会話が満足度を上げているということがアンケートの分析結果からわかったからというのと、先行事例として新入生の友達作りに関する不安を解消するために関西大学教育後援会が今年の7月に開設した「触れずにフレンズ」というサイトがあるというのを知ったからである。なお、このサイトは開設して1週間で約2000人がログインしたとのことで、オンラインでの友達作りに対する関心の高さがうかがえる。

そこで、筑波大にも対面での交友を促進する独自のオンラインツールが必要なのではないかと

考えたのだ。既存の SNS を活用すればよいのではないかと思う人もいるだろう。しかし、既存の SNS では対面での交友のきっかけを作ることは難しいと考えられる。例えば、LINE は入学時に学類の学年グループは作成されるかもしれないが、そこから対面での交友につなげるのは困難だ。また、Instagram や Twitter は前提としてフォロー・フォロワーの関係になる必要があるが、それが大変な作業である。フォローできたとしてもそのあと対面での交友にはつながらない。そこで、ユーザーを筑波大生に限定して閉じた空間を生み出すということを考えた。利用者は筑波大生に限定されるので学生は安心して利用できるし、プロフィールも詳しく設定しやすくなる。オンライン上でそういった環境が対面での交友につながると期待することができる

アカウントの登録は大学の統一認証システム（ユーザ ID とパスワード）を利用する。プロフィールは、名前（ニックネーム）・学類・所属しているもしくは自分が気になっているサークル等の団体・趣味のタグ・自己紹介文などを書き込めるようにする。また、学生個人のアカウントだけでなく、サークル・部活等の団体もアカウントを作れるようにする。

これより機能の説明を行う。学内 SNS を提案するにあたって、2 つの取り入れたい機能について説明する。

1 つ目はタイムライン機能だ。これは、人を集めて何かをしたいときに呼びかけすることができる機能である。例えば、テスト勉強に誘ったり、先輩に過去問を持っていないか聞いたり、食事に誘ったりすることができる。お誘いをするときには連名でタイムラインに投稿でき、募集人数の設定も行える。また、タイムラインを見る側の人には投稿をスワイプ式で閲覧していくシステムにする。右スワイプをすれば参加したいという意思表示、左スワイプをすれば不参加という意思表示になる。右スワイプをした場合はタイムラインの投稿者に通知が届き、それを投稿者が確認してその人とイベントを行うか否かを決定するというマッチング方式をとる。スワイプ式にした背景としては、受動的な人でも利用しやすい点と、タイムラインの投稿がランダムに表示されるので偶発的な出会いを生み出せるという点にある。既存の SNS では能動的に動かないと対面での交友が生まれにくかったが、このスワイプ機能があれば受動的な人でも簡単に意思表示ができる。また、これまで一切かかわりを持っていなかった人とマッチする可能性も高く、偶然の出会いというものが生まれやすい。

2 つ目は、検索機能だ。これは、自分と気の合いそうな人を探せる機能だ。プロフィールで趣味のタグや気になっている・興味を持っている団体を設定しておくことで自分と共通の趣味をもつ人、同じ団体に興味がある人を見つけることができる。また、気になっている・興味を持っている団体をプロフィールで設定しておくことで、団体側がそれを頼りに自分たちの団体に興味を持ってきている学生を見つけて、その人にアプローチすることができる。団体への勧誘のターゲットは主に 1 年生となるだろうが、2 年生以上の学生でも、これから新たな団体に入ろうと思っている人たちも対象となる。趣味のタグなどで共通点を見つけて効率よく気の合いそうな人と交友のきっかけを作ることや、サークル等に入りやすい環境を作ることが可能にする。

また、以上 2 つの機能を使って見つけた気の合いそうな人と連絡が取れるようにチャット機能も取り入れるのが良いと考えている。これらの、既存の SNS にはない学内 SNS の機能を活用して、筑波大生間での対面での交友でのきっかけを作ってもらい、大学生活の満足度を上げてもらうというのが最大のねらいである。

第5章：謝辞

演習を進めるにあたり、担当教員の和田健太郎先生、TAの高橋諒さんにご協力をいただきました。また、多くの方にアンケートにご協力をいただきました。この場を借りて感謝を申し上げます。

第6章：参考文献

1) 「大学生生活充実感を規定する要因の検討」 大対 香奈子 「日本教育心理学総会発表論文集 第56回総会発表評論文集 p. 175

https://www.jstage.jst.go.jp/article/pamjaep/56/0/56_175/_article/-char/ja

最終閲覧日：12月16日

2) ダイヤモンド社 大学生「もう限界!」、授業オンライン化の大混乱で孤独・睡眠不足・心身不調に 鈴木洋子

<https://diamond.jp/articles/-/244872?display=b>

最終閲覧日：11月4日

3) オンラインコミュニケーションは難しい? オンラインコミュニケーションの問題点と解決策

https://go.chatwork.com/ja/column/business_chat/business-chat-014.html

最終閲覧日：11月4日

4) 教員アンケート：筑波大学新聞 第358号より抜粋

<HTTPS://WWW.TSUKUBA.AC.JP/PUBLIC/NEWSPAPER/PDF-PR/358.PDF>

最終閲覧日：12月16日

5) 生徒アンケート：筑波大学新聞 第357号より抜粋

<HTTPS://WWW.TSUKUBA.AC.JP/PUBLIC/NEWSPAPER/PDF-PR/357.PDF>

最終閲覧日：12月16日

6) 産経ニュースさんはTwitterを使っています

「対面授業が半数未満の大学名、公表へ 文科省、来月上旬

<https://t.co/awjNMStlyD>

最終閲覧日：12月16日

7) “対面はオンラインに勝る”というメッセージになってしまう懸念も 文科省「対面授業が5割未満なら大学名公表」の方針が波紋

<https://blogos.com/article/495496/>

最終閲覧日：12月16日

付録：アンケート設問一覧

- 1.あなたの性別を教えてください。
- 2.あなたの所属する学群を教えてください。大学院生の方は大学院生を選択してください。
- 3.あなたが筑波大学へ入学・編入した年度を教えてください。
(筑波大学大学院へ今年度入学し、昨年度筑波大学へ在籍していた場合は 2018 年度以前、筑波大学大学院へ今年度入学し、昨年度筑波大学に在籍していなかった場合は 2020 年度になります。)
- 4.あなたの昨年 (2019 年度) 春学期(4~6 月)の交友関係の満足度はどのくらいですか。
- 5.昨年春学期の 1 週間で交友した筑波大生の平均人数を会話の種類ごとにお聞きします。
 - 1)対面での長時間の会話 (10 分以上) を交わした筑波大生は 1 週間におおよそ何人いましたか。複数人で会話をを行った場合、全員と会話をしたとみなします。
 - 2)対面での軽い会話 (数分程度) を交わした筑波大生は 1 週間におおよそ何人いましたか。複数人で行った場合、全員と行ったとみなします。(長時間の会話をを行った筑波大生は人数に含めません。)
 - 3)対面での挨拶・会釈をした筑波大生は 1 週間におおよそ何人いましたか。(長時間の会話の軽い会話をを行った筑波大生は人数に含めません。)
 - 4)通話・ビデオ通話をした筑波大生は 1 週間におおよそ何人いましたか。複数人で行った場合、全員と行ったとみなします。
 - 5)チャット (LINE のトーク、Instagram・Twitter の DM など) をした筑波大生は 1 週間におおよそ何人いましたか。(1 対 1 で行った場合のみ)
- ※4,5 は 2019 年度以前入学者のみ
- 6.あなたの今年 (2020 年度) 春学期の交友関係の満足度はどのくらいですか。
- 7.今年春学期の 1 週間で交友した筑波大生の平均人数を会話の種類ごとにお聞きします。
(設問は 5 の 1)~5)と同様)
- 8.あなたの今年 (2020 年度) 秋学期の交友関係の満足度はどのくらいですか。
- 9.今年秋学期の 1 週間で交友した筑波大生の平均人数を会話の種類ごとにお聞きします。
(設問は 5 の 1)~5)と同様)
- 10.Twitter の先週 1 週間のツイート数を教えてください。(筑波大生がフォロワーに 1 人以上いるアカウントでの累計ツイート数) なお、リツイートは含めません。
- 11.Twitter の先週 1 週間の自分へのリプライではないツイートへ自発的にリプライした数を教えてください。(筑波大生がフォロワーに 1 人以上いるアカウントでの累計)
- 12.Instagram の先週 1 週間のストーリーへの投稿回数を教えてください。(筑波大生がフォロワーに 1 人以上いるアカウントの累計)
- 13.先週 1 週間の、ストーリーに反応した DM 送信回数を教えてください。(筑波大生がフォロワーに 1 人以上いるアカウントの累計)
- 14.LINE、Instagram、Twitter、Facebook 以外で友人との連絡に使用している SNS があれば教

えてください。

- 15.自分宛の LINE、DM への返信は送信されてから平均してどのくらいの速さで行いますか。
- 16.サークルや部活動などの学内団体に昨年春学期・今年春学期・現在の段階でそれぞれいくつ所属していましたが。(幽霊部員状態となっているものを除く)
- 17.16のうちスポーツを行う団体はいくつありますか。(幽霊部員状態となっているものを除く)
- 18.今年の春学期に、所属するサークル・部活動などの学内団体にオンライン活動はどのくらいありましたか。
- 19.オンライン状況下だからこそ生まれた学内団体の活動で新たな活動がもしあれば教えてください。
- 20.昨年春学期・今年春学期・今年秋学期に、試験勉強やレポートに友人と一緒に取り組むことはありましたか。(オンラインを含む)
- 21.20で今年の春学期に「あった」と答えた方に質問です。それは何の講義でしたか。
- 22.今年春学期・秋学期それぞれで、オンラインでのグループワークがあった講義の1週間のコマ数の平均を教えてください。
- 23.今年春学期・秋学期それぞれで、1週間あたりの平均の双方向リアルタイムの講義のコマ数を教えてください。(グループワークなどの対面授業は含めません)
- 24.今年秋学期の1週間あたりの対面授業のコマ数の平均を教えてください。
- 25.今年秋学期の対面授業のうち体育や実験、グループワークなど、会話が発生する講義の1週間あたりのコマ数の平均を教えてください。
- 26.講義内で知り合った、または交友関係が深まった友人がいる場合、それは何の講義でしたか。
- 27.回線速度やPCのスペックといった問題で、春学期のTeamsやZoomといったオンライン会議ツールの使用に不満はありましたか。
- 28.TeamsやZoomといったオンライン会議ツールの使用に苦手意識はありましたか。
- 29.あなたの普段の居住環境を教えてください。
- 30.オンライン講義が行われていた今年の春学期にどこに居住していましたか。
- 31.自宅から大学での主な講義場所への通学時間(分)を教えてください。
- 32.以下のうち当てはまるものを選んでください。
車を持っている／何らかのカーシェアの会員である／免許は持っているが上記に当てはまらない／免許を持っていない
- 33.昨年春学期・今年春学期・現在について、筑波大生が同僚にいるパート・アルバイト等をどのくらい行っていますか。
- 34.今年春学期、今年秋学期、(昨年春学期)で、交友関係に変化があれば教えてください。
- 35.あなたの性格について、ショートビッグファイブテストという方法を用いて分析を行います。
以下のうち当てはまるものを直感的に選んでください。
全く当てはまらない／ほとんど当てはまらない／どちらともいえない／やや当てはまる／完全に当てはまる
 - 1)初対面の人と会うのが好きで、初対面でも相手との会話を楽しむことができる
 - 2)他人に思いやりがあり、それを行動に移していて皆に差別無く親切にできている

- 3)物事をきっちりこなし、手際よく効率よく行っている
 - 4)いつも心配事が多く、不安になりやすい
 - 5)新しいことを知ることが好きで、クリエイティビティが高く好奇心や探究心が強い
 - 6)恥ずかしがり屋で物静かなタイプ
 - 7)思ったことをすぐに口に出し、他人の感情に流されず冷静な判断をする
 - 8)後先考えずに行動して、ぎりぎりまで物事に手をつけない衝動的な部分がある
 - 9)大抵リラックスして落ち着いている
 - 10)物事を現実的に考え、常識破りなことはしない、保守的な考え方である
- 36.本アンケート全体を通しての意見や、with コロナ時代における交友関係の在り方についての意見があれば教えてください。